

# つくば市記者会 御中

発信日：令和4年（2022年）1月27日（木）

発信元：つくば市 政策イノベーション部 科学技術振興課

■取材依頼 ■周知依頼 □募集告知 □その他

## 水素燃料電池バス「SORA」から 災害時を想定した電源供給を行う実証実験を行います

つくば市は、筑波大学が「水素燃料電池バスを用いた防災・感染症対策システムの開発」事業の一環で実施する、感染症対策システムを備えた「災害医療モビリティ」の実証実験に協力しています。

今回、茨城県の協力をいただき、福祉避難所である茨城県立つくば特別支援学校で、筑波大学の感染症対策システムを備えた水素燃料電池バス「SORA」から、医療ケア等で利用する器具類へ直接電源供給を行う実証実験を行います。

### 【日時】

令和4年1月28日（金）15:30~16:30

### 【場所】

茨城県立つくば特別支援学校（つくば市玉取2100）

### 【内容】

医療ケア等で利用する器具類への電源供給、学校等関係者との意見交換等

### 【その他】

取材をご希望の方は、1月28日（金）10時までに、科学技術振興課にご連絡ください。  
なお、新型コロナウイルス感染症の状況によっては延期する場合があります。

### ※水素燃料電池バス「SORA」について

筑波大学が内閣府戦略的イノベーション創出プログラム（SIP）「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」の採択事業「水素燃料電池バスを用いた防災・感染症対策システムの開発」で開発したもので、令和3年10月より感染症検査機能の実証実験や、市独自のPCR検査会場での臨床研究、「令和4年つくば市成人の集い」当日のPCR検査等、様々な場面で運用されています。

市では、今後も筑波大学等と協力し、感染症対策の施された避難所レイアウト検証など様々なシーンで展開するためのフィールド提供を行う予定です。



水素燃料電池バス「SORA」  
(筑波大学提供：写真提供可)